

作家名

加藤 修



作家詳細

タイトル

## 幟旗をつくる

布、水性ペンキ

コメント

作品制作では、時間の経過や生命・存在について素材が持つメッセージ性を用いながら制作しています。自制作した鉛のパネルを支持体として描いたり、朽ちた木や廃材を材料に用いて削り出し画面に配置することも多く、「描写」についてもイリュージョンの効果よりも、描くという行為自体に関心を持ち向き合っています。私は伝達すべきメッセージを的確に伝える一つ的手段として「作品」を認識していますので、自制作による作品とともに自作のワークショップ企画も同様の価値に位置付けています。

### 出前ワークショップ

学校名

鎌足小学校

コメント

今回のプロジェクトを印象づける作品でありたいと思い、駅前から連なる大作を企画しました。最終的に幟旗を展示するまでには、幾段階もの過程がありました。まず、当プロジェクトに感じる事、または期待として、海・風・爽やかさを連想させるペパーミントグリーンをイメージカラーとしました。続いて、鎌足小学校の子どもたちに協力してもらい、一人に一枚ずつ抽象性の高い作品を作ってもらいました。各自の得意なポーズのシルエットを布に写し取り、その内側、外側を自由に彩色するものです。この手法の魅力は、本人が直接布上に寝そべり輪郭を写し取ったシルエットなので等身大であり、そのサイズからも、制作した現在の記憶がリアルに記録されることとなります。完成後、子どもたちの作品は、先に用意したイメージカラーの布と接合され、かなり縦長（縦3m）の幟旗となります。接合のための縫製作業、幟旗用ポール取り付け帯の縫い付けは、鎌足小学校ご父母有志が行っていただきました。そして完成した約60枚の幟旗作品は、駅前から海岸に伸びるアーケード約200mに展示されています。幟旗はこれからの時代を築く児童の躍動感と地域活性の思いを重ねながら、木更津の海風にはためきます。当初、イメージカラーとして選んだ色彩の幟旗の布が街環境でどのように目に映るか心配でしたが、適度に目立ちながら寺社の多い歴史ある街並みにも馴染んでいたのが安心しました。歴史を感じさせる寺社の銅葺き屋根の色彩にも呼応しています。多くの世代や立場の方の協力で完成に漕ぎ着けた作品となりました。



ご協力いただいた学校関係者・ボランティアサポーターの方々、心からお礼申し上げます。  
木更津みなとぐちアートプロジェクト2022 ミナート スタッフ一同

ミンナとアート  
みなとぐち

art-kisarazu.jp